

2016.9.20

◎アレキサンドライト発見に関する情報

青木千里さんより

手元のロシア語の本「JEMSTONES RUSSIA」by J.P.Samsonov

1993年（初版は1984年）には

1834年ウラルでエメラルド類似石の中に変種の一つとして、フィンランド人鉱物学者ノルデンシヨルド Nordenskjold によって見つけ出された。

と、短い記述があります。

ネット上のロシア語のページを検索してみました。下のサイトには2つの説が紹介されています。

<https://ru.wikipedia.org/wiki/Александрит>

※ロシア語の URL なのでリンクが見られない場合は、以下からご覧ください。

<https://goo.gl/7SiG9T>

1) サンクトペテルブルグ科学アカデミーから派遣されたフィンランド人鉱物学者ニルス ノルデンシヨルド (1792 ~1866) によって1834年4月17日によって風変わりな色の石が発見された。

公表されたのは1842年。

2) 1833年エカテリンブルグ近郊のトコバヤ川のほとりで発見された。それはエメラルドのようだとエカテリンブルグ研磨工場の Kokovin Yakov Vasilevich は記述している。

その新しい鉱物はサンクトペテルブルグに送られ レフ・アレクセイヴィチ・ペロフスキー Lev Alekseevich Perovskii (1792 ~ 1856) によって調査された。

彼ははじめ「ヂアファニート Diaphanite (輝く、きらめく石の意)」と名付けるつもりだったが、時の皇太子アレクサンドル (後の皇帝アレクサンドル2世) の成年祝賀 (1834

年4月17日)の際に皇帝一家に献上する機会に恵まれた。未来の皇帝に敬意を表して新しい鉱物はアレキサンドライトと名付けられた。

初めて世に公表されたのは1842年。

このロシア語のサイトにはそれぞれの根拠とする出典の書籍もきちんと記載されています。必要であれば翻訳してデータ送ります。

2) の説については英語のサイトもあります。

<http://www.alexandrite.net/chapters/chapter2/index.html>

ただしこの英語のサイトは出典が記載されていません。

ロシア語の資料を信頼するなら、
飯田説 1842 年はアレキサンドライトが世に公表された年。
近山説 1831 年は後にアレキサンドライトが発見されたトコバヤ川の
エメラルド坑が見つけた年。
と一致します。諏訪説は?????

以上、少しですがご参考までに・・・。

ジュエリー文化史研究会

<http://www.j-bunka.jp/>

※返信の必要のある方は、以下のアドレスにメールを送ってください。

日本宝飾クラフト学院 info@jj-craft.com

幹事 戸倉博之 spina@precious-chroma.com